

# 平成30年度農作業体験学習実態調査結果

平成30年10月31日  
福島県農村振興課

## 1 調査主旨

県内公立小学校において「田んぼ」「畑」を活用し、農作業体験を通して農業・環境を学ぶ授業（以下、農作業体験学習）の実施状況を把握する。

## 2 調査概要

- (1) 照会期間 平成30年6月19日～平成30年8月10日
- (2) 対象校数 442校（平成30年4月1日現在（休校を除く））（H29 445校）
- (3) 回答校数 356校 回答率81%（H29 367校 回答率：82%）

※特に表記のない場合、単位は「校」とする。

## 3 調査結果

### <農作業体験学習の実施状況について>

問1 今年度、農作業体験学習を行っていますか。

	地域別							県全体	参考 (H29)
	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき		
はい	65	71	26	40	10	31	36	279	284
いいえ	22	15	5	8	2	3	22	77	83
実施率	74.7%	82.6%	83.9%	83.3%	83.3%	91.2%	62.1%	78.4%	77.4%

回答のあった356校の約8割の公立小学校が農作業体験学習を実施している。

### <農作業体験学習の実施内容について>

問2 (1) 農作業体験学習をどのように実施していますか。

※実施校279校（複数回答）

年間を通じた農作業体験学習取組校数の内訳	農地利用		容器利用		(参考) H29	
	田んぼ	畑	バケツ稲 プランター		田んぼ	バケツ稲 プランター
水稲	115		132		104	110
野菜等		198			畑 206	
水稲・野菜等の重複を除いた実際の取組校数	261 (※重複52)			251 (※重複59)		
(参考)田んぼ・バケツ稲・畑・プランターのうち、いずれか1つ以上に取組む校数	272			271		

※実施校 279 校（複数回答）

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	県全体	参考 (H29)
田んぼ	23	30	11	32	3	7	9	115	104
畑	43	46	20	36	10	17	26	198	206
バケツ・プランター	27	33	14	10	2	25	21	132	110
その他	6	1	1	1	0	1	1	11	10

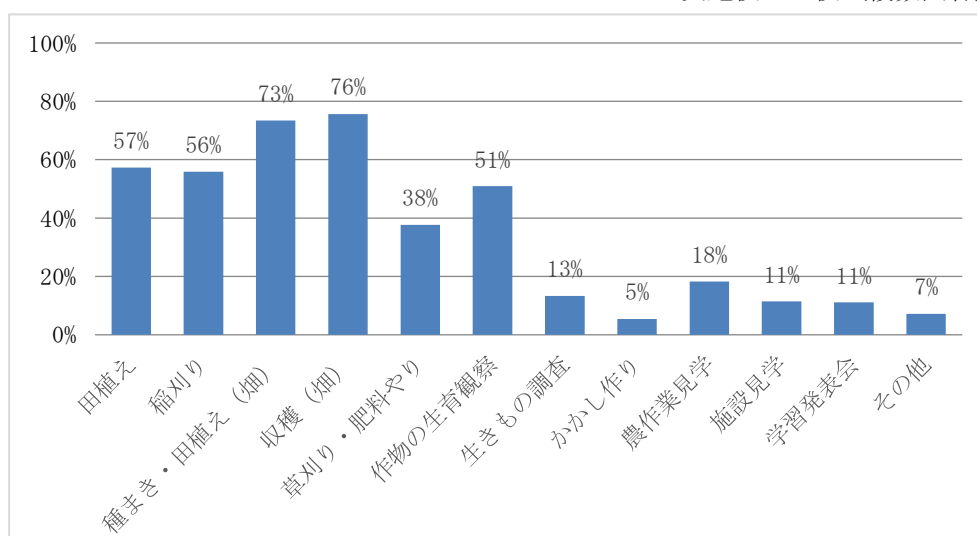
（その他内訳） 花壇、学校園、農家民宿等

農作業体験学習は、田んぼを利用したものが4割、バケツ・プランターを利用したものが約5割、畑を利用したものが7割となっており、特に畑を活用した農作業体験学習が広く実施されている。

#### <農作業体験学習の具体的な取組内容について>

問2（2） 具体的にどのような作業をしていますか。

※実施校 279 校（複数回答）



（その他内訳） 脱穀、収穫祭、バケツ稲、石取り、餅つき、収穫物の調理等

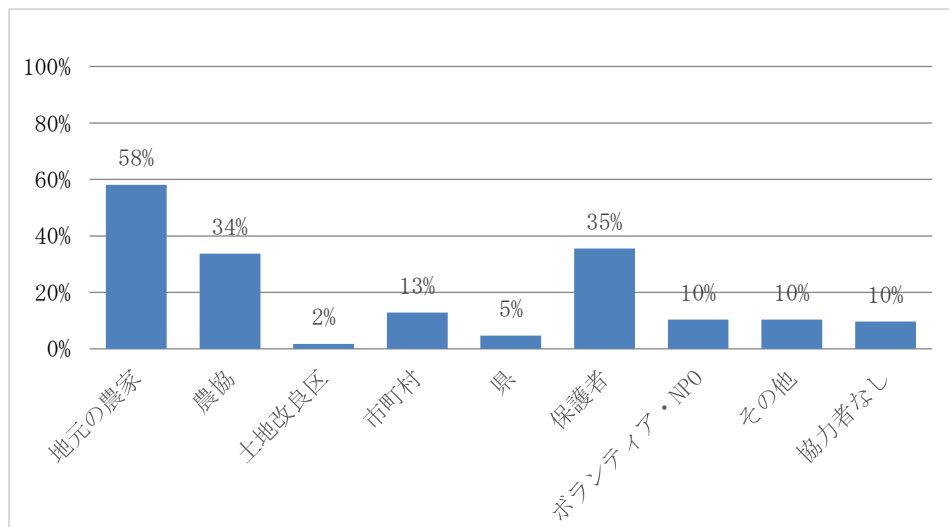
農作業体験学習の具体的な活動内容としては畑での種まき・田植え、収穫が多く、次いで田植え、稲刈り、作物の生育観察が多くなっている。

また、農作業見学や施設見学、学習発表会など、農業を深く理解するための活動も実施されている。

＜農作業体験学習における協力者について＞

問2（3） 農作業体験学習を行う際、どのような方に協力してもらっていますか？

※実施校 279 校（複数回答）



（その他内訳） 自校用務員・支援員、高校・大学、地域の団体、企業、元 PTA 役員等

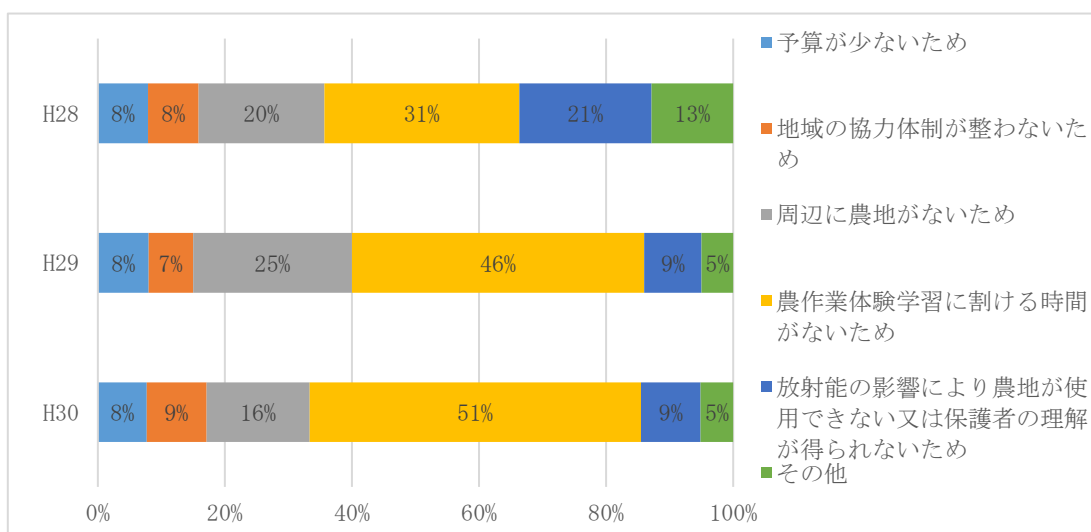
農作業体験学習の実施にあたっては、地元の農家や農協など、農業についての知識や技能を有する方々の協力を得ている。

また、保護者の協力も高い割合である。

＜農作業体験学習を実施していない理由について＞

問3（1） 実施していない理由は何ですか。

※未実施校 77 校 (H30), 83 校 (H29), 104 校 (H28)（複数回答）



（その他内訳） 教育課程に位置づけていないため、児童が多いため、協力者を選考中であるため等

農作業体験学習を実施していない理由として、「農作業体験学習に割ける時間がないため」が年々増加している。

＜農作業体験学習未実施校における実施意向について＞

問3（2） 上記の理由が解消されれば、「田んぼ・畑」を活用し農作業体験学習を実施したいと思いますか。

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	県全体	参考 (H29)
はい	14	9	4	6	0	1	16	50	46
いいえ	8	6	1	2	2	2	6	27	37
実施希望 割合	64%	60%	80%	75%	0%	33%	73%	65%	55%

農作業体験学習を実施していない学校のうち、条件を整えば実施したいとの意向を示す割合は6割を超えている。

#### 4 まとめ

##### (1) 課題

通年の農作業体験学習を実施する「田んぼの学校・畑の学校」と同様に農地を利用した活動は、73%（356校中261校）の学校で実施されている。一方で、農地や協力者の確保が困難なことを理由に農作業体験学習に取り組んでいない学校がある。

また、これまで農作業体験学習には総合的な学習の時間や理科の授業時数の一部が充てられていたが、近年外国語活動等の増加により、授業時間の確保が大変困難になっている。

##### (2) 今後の対応

本調査結果をふまえて、農地を利用した農作業体験学習の実施を希望する学校及び、農作業体験学習の実施に課題を有する学校に対して「田んぼの学校・畑の学校」推進事業による支援を行うことで、実施校数の増加を図る。

また、本調査で「田んぼの学校・畑の学校」推進事業の実施を検討していると回答された学校に対しては、実施校選定に向けて積極的に働きかける。

さらに、「田んぼの学校・畑の学校」の実施校による合同成果発表会を開催することで、各校の取組内容や実施体制（農地、協力者）、学習効果等について情報共有するとともに、農作業体験学習の有効性を広く周知する。